

丹邱学舎

西溪ツインズ



令和2年2月21日(金)発行 校長 川崎 朗
自信と誇りを持ち 自ら学び 心豊かに たくましく生き抜く 西溪っ子の育成

「立春の候」から「早春の候」となりました

2月も第3週目も終わり、21日となりました。本当に時間が経過するのは早いものです。昔から、「1月はいく。2月は逃げる。3月は去る。」と言われます。この言葉は、社会の生活の中で年度末にあたる学校の3学期はすぐに終わってしまうことを表したものです。

表題に「立春の候」「早春の候」という言葉を使っています。これはいずれも2月を表す時候の言葉（手紙などの最初にその時期を表すために使われてきた言葉）です。

厳しかった冬も終わり、少しずつ春になってきている様子を表している言葉です。

2月を表す時候の言葉には、「立春、向春、早春、春浅、春雪、春寒、晩冬、残雪、雪解、余寒、残寒、厳寒、梅花、紅梅、梅月、梅鶯、中陽、節分、寒明け」などがあります。冬と春の間の2月らしく、冬の終わりと春の始まりを表すような言葉が並んでします。また、2月の花である梅の花が咲く様子を表したものもたくさんあります。このようなものを見るたびに「日本語って本当に美しい言葉だな」と心から思います。

今年は暖冬で、冬の厳しさを感じることも少なかったのですが、それでも冬から春にかけて季節が大きく変わっていることを実感します。

学校にとってはしめくくりの時期となっています。本年度登校する日は9年生が10日、その他の学年は20日となります。始業式の日「3学期に学校に来る日は9年生が41日と他の学年は51日」と言いましたが、9年生にとっては残り10日となってしまいました。この間に最後の日はもちろん卒業式、その前に2日間の県立高等学校の一般選抜入試が実施されます。9年生にとっては義務教育の総仕上げの10日間、他の学年にとってもそれぞれの学年のしめくくりをする20日間となります。

この残り少なくなった今年度の生活の中でぜひ考えてほしいことがあります。

**一期一会！今年1年間の出会いに感謝をしましょう
クラスゴールの実現に向けて今できることを全力でがんばろう！
自分の志をもって次の学年や高校に進もう！**

本校は各学年1学級しかないので、クラス替えはありません。しかし、担任の先生を含めた今の集団での生活は今年しかありません。その中でたくさんの思い出があるはずです。いいことも悪いことも含めた多くのことを教えてくれた先生や友だちとのこの出会いに感謝してほしいです。二番目に、4月につくった各学級の目標はクラスのゴールです。各教室で子どもたちにはもう一度自分たちのゴールを確認し、残り10日余りですが、その実現に向けて頑張りたいと思っています。最後に、自分の夢や志をしっかりとってほしいと思います。そして今の自分を見つめ、これからの自分がどうするか自分で決めてほしいと思います。いつからでも人は成長できます！ 残りわずかでも、できることはたくさんあります。今自分ができていることに精一杯取り組んでほしいと期待しています。

今年度もたくさんのことを地域の方から学びました！

2月2日(日)に多久町公民館において多久町の文化祭が開催され、本校からも児童生徒の習字や絵画、詩、修学旅行新聞などの作品の展示が行われ、ステージでも6年生の鳥井なおさんのスピーチや文化活動部による琴の演奏で参加をしました。スピーチでは、自分自身が取り組んできたジュニアガイドの活動についてその大変さやそこから学んだことを発表してくれました。また、文化活動部の琴の演奏では、7年生の白木妃菜さんと陣内ころろさんのふたりが顧問の富増先生と一緒に2曲も演奏しました。どちらもすばらしく、会場から大きな拍手をもらっていました。

同じ2月2日(日)には、多久市の子ども議会も開催され、本校からも6年生の江打かおるさんと田中心遙さんが出席をしました。当日は実際に議場に入って市議会議長の議事進行のもとで、横尾市長からからの条例の提案を受けて、勉強タイムで市議会議員と一緒に考え、その後の質問タイムで議案について質問をして、最後は条例に賛成か反対かをその理由をつけて発表するというものでした。実際に市で行われている市議会を子どもたちがその場にはいって考えるという貴重な体験になったと思います。

また、2月6日(木)に8年生で、多久市消防署の方を講師を招いての応急手当講習が開かれ、心臓マッサージのやり方とAED(自動体外式除細動器)の使い方について学びました。いろいろな場面で心不全などの事故が起こったときに心肺蘇生法を知っていることで人命を救うことができます。本校にもAEDは設置してありますし、いざというときに私たちにとって知っておかなければならないことであり、重要な学習であったと思います。

さらに、2月19日(水)には小城警察署から御指導を受けながら不審者対応の避難訓練を行いました。警察の方に不審者の役をしていただいて、本校職員がさすまたで対応しているうちに、児童・生徒は東体育館に無事に避難をしました。11月の火災の避難訓練の時は、しゃべったり笑ったりしている児童が見られましたが、今回の訓練では全員が真剣に私語をすることなく整然と避難訓練をすることができました。訓練後の講話では多くの児童・生徒が知っている「いかのおすし」(「行かない」「乗らない」「大声でさけぶ」「すぐに逃げる」「知らせる」)の大切さについて改めて確認をしていただきました。

このように、本校では1年間の中でたくさんの地域のみなさんや地域のいろいろな機関から御指導や御支援を受けながら、学校の中だけでは学ぶことのできないたくさんのことを学ばせていただいたり、地域の中で生き生きと活躍する機会をいただいています。本当にありがとうございます。この1年間たくさんの皆様に支えていただきながら、学校教育の充実が図られていると思います。これからも地域の未来を支える子どもたちを学校・家庭・地域で連携・協力をしながら一丸となって育てていくために、変わらぬ御支援をいただきますよう、よろしくお願いします。

